

【プログラム】

1. ヴィヴァルディの「四季」より～「夏」第3楽章プレスト(夏の嵐)

ヴィヴァルディは1725年に、12曲のヴァイオリン協奏曲から成る作品集8番を出版しました。この中で最初の4曲が「春」、「夏」、「秋」、「冬」の名前で呼ばれており、4曲をまとめて「四季」と呼ぶようになりました。各曲が3つの楽章からなっています。

この度の例会では、その一部づつを演奏します。まずは刺激的な「夏」から

2. ナポリの宝石箱

：、「フニクリ・フニクラ」、「オーソレミオ」、「帰れソレントへ」他の有名なイタリア歌曲のメドレー

冒頭の3曲は普通ナポリ民謡と呼ばれていて、作者不詳年代不詳と想像したくなりますが、これら3曲の成立は意外と最近(1880－1902頃)で、作詞作曲者もはっきりしています。例えば、「フニクリ、フニクラ」は、ポンペイを壊滅させたベスビオ火山の登山鉄道の客寄せのために1880年に作られたものです。リヒャルト・シュトラウスがこの曲を民謡と勘違いして、自分の曲に取り入れたために、後で著作権侵害で訴訟になったという逸話があります。それくらい郷土色豊かな曲となっています。NHKはCM曲は放送しない方針だったのですが、このCMソング「フニクリ、フニクラ」を「みんなのうた」で大々的に放送しました。上の3曲の原曲の歌詞はすべてナポリ方言のイタリア語で書かれているとのことでした。

3. ヴィヴァルディの「四季」より～「秋」第3楽章アレグロ(狩り)

この作品でヴィヴァルディは、18世紀の狩猟風景を表現しています。

4. 歌劇:「椿姫」より

「椿姫」(1853年初演、La Traviata, ヴェルディ作曲)はオールタイム・トップ5に入る人気オペラです。このオペラはアリアのヒットパレードと呼ばれるくらいに人気のアリアが詰まっています。「乾杯の歌」、「花から花へ」等々、曲名を上げなくても、歌劇を見たことも聞いたことがない方でも、何故か知っているメロディーが次から次へと出て来ます。パリの高級売春婦と若い紳士の悲恋物語です。

今回は、マンドリンの黄金期を支えたマンドリニスト、エンリコ・マルチェッリによる編曲作品です

5. 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲

「カヴァレリア・ルスティカーナ」(Cavalleria rusticana [直訳は 田舎の騎士道ということ])はマスカーニ作曲(1890年初演)の一幕物のオペラで、シチリア山間部の村を舞台として貧しい人々の三角関係のもつれから起こる決闘を淡々と描いています。序曲と今回演奏される大変美しい間奏曲が有名ですが、マンドリンのために編曲されたものでお楽しみください。

6. 歌劇:「椿姫」より

「カルメン」(1875年初演、Carmen ビゼー作曲)も同様に人気の歌劇で、「ハバネラ」、「闘牛士の歌」などのアリアや、調子の良い「序曲」などいずれも皆さんに馴染みのものでしょう。「カルメン」

の作曲者ビゼーはフランス人で、歌詞はすべてフランス語、劇の舞台はスペインとなっており、イタリアとは関係がなさそうですが、恐らく「カルメン」の日本での人気の高さから演奏プログラムに入っていると思われます。移り気なジプシー女 カルメンに翻弄される元騎兵 ホセ が逆上して 殺してしまうという悲劇です。

今回は、19～20世紀のヨーロッパで多くのコンサートを行った指揮者ヴィンチェンツォ・ビッリの編曲によるものです。

……休憩……

7. ヴィヴァルディの「四季」より～「冬」第2楽章ラルゴ(夏の嵐)

ここでのヴィヴァルディは、冬の外の冷たい雨と暖炉の前で過ごす暖かな時間を表現しています。

8. 映画音楽メドレー

： この部分はイタリアに縁のある映画音楽よりの抜粋のメドレー

「ライフ イズ ビューティフル」(La Rita e Bella)は1997年のイタリア映画で、カンヌ映画祭グランプリ(1998年)を受賞しています、また、米国アカデミー賞主演男優賞と外国語映画賞(1998年)も受賞しています。 第二次世界大戦中のユダヤ系イタリア人が苦難をユーモアで耐える物語です。

「ゴッドファーザー」(Godfather) (1972年)はアカデミー賞受賞のアメリカのヒット映画で、アメリカのイタリア系移民のマフィア家族を描いたものです。主題曲「愛のテーマ」はイタリア人 ニーノ・ロータ(フランス映画「太陽がいっぱい」の音楽を担当)によるものです。オリジナルサウンドトラックにも既にマンドリン演奏があるのをご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

「ニューシネマ パラダイス」(Nuovo Cinema Paradiso、1988年)はイタリア映画で、中年男性(今では有名な映画監督)が少年青年時代の田舎の映画館での出来事を回想する物語です。この映画は米国アカデミー賞外国語映画賞を受賞(1989年)、また、カンヌ映画祭特別賞を受賞(1989年)しました。主題曲「愛のテーマ」はイタリア人 Ennio Moricone による作曲です。

9. ヴィヴァルディの「四季」より～「春」第3楽章アレグロ

再生の季節。小鳥や虫や羊飼いが春の訪れを喜び、歌い、踊る様子が生き生きと表現されています。

10. 荒城の月

私たちに最もなじみ深い瀧廉太郎が作曲した歌曲です。この曲は、海外でも広く知られていて、マンドリンオーケストラ・アレンジで演奏されます。

11. ダンス

イタリアの作曲家ジョアキーノ・ロッシーニの歌曲「踊り」(La danza)です。ロッシーニは全 12 曲からなる歌曲集「音楽の夜会」を足掛け5年で作曲しました。この歌曲はそのうちの第8曲目であり、その

中でもっとも魅力的であり愛好されたナポリ舞踊曲です。恋人を誘って愉しく踊る様子が表現されます。

12. フリージオのこだま

サントルチアなどによるナポリ民謡のメドレーとなっています。作曲者のジュゼッペ・ベルンギは、ロマン主義時代の重要なマンドリン奏者の一人です。

13. ナポリのこだま

作曲者はエマ・ルイス。初期ナポリ民謡の鮮やかなメドレーが繰り広げられます。

14. ビエディグロッタ・タランテッラ

作曲者ルイジ・リッチは19世紀初めのイタリアの作曲家、指揮者で、主にオペラの分野で活躍しました。タランテラ (tarantella) は、ナポリ舞曲の 3/8 または 6/8 拍子のテンポの速い様式をいい、この曲は19世紀から20世紀にかけてオペラで使用された人気の高いものとなっています。